

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103965		
法人名	有限会社 きずな		
事業所名	有限会社 きずな グループホーム きずな	ユニット名	
所在地	長崎市矢の平4丁目3番7号		
自己評価作成日	平成25年2月14日	評価結果市町村受理日	平成25年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成25年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家型で7名と、少人数で対応しているグループホームで家庭的な雰囲気のあるホームです。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームきずな”の職員は優しく、ご利用者の事を大切にしたい関わりが続けられている。「ケアされる内容をご本人が理解できれば、拒否される方はおられない」と言う代表(管理者)の思いを職員も理解し、ケアの前には丁寧な声かけが行われている。入浴時には男性職員や女性職員から抱っこされてお風呂場に行かれる方もおられ、ご本人も職員の首に腕を回し、安心して見える表情が見られている。ケアをしている職員の頬や頭を笑顔で撫でて下さる方も多く、職員も日々の生活の中で、ご本人を優しく抱きしめたり、頬ずりして、“大好きよ”と言う思いを伝えている。“きずな”で生活しているうちに、次第に感情表現が豊かになられる方も多く、職員も嬉しく思っている。馴染みの職員が多い中、常に職員の方々は新鮮な思いでご利用者と家族に向き合われており、「何年一緒に暮らしていても知らない事がたくさんあります。日々発見で、新たな事がわかると職員全員で喜んでます」と語って下さる職員の方の笑顔が印象的で、主治医からも「ここから〇〇さんは元気で過ごせていますよ。満点!」と言う言葉を頂き、職員の大きな喜びになっている。開設から10年が過ぎ、今後も更に“楽しみ”を増やしていく予定にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員・管理者は、ご利用者が地域で生きる事の大切さを理解してより良い関係がつけられるようにその方らしさを大切にし日々の支援に努めている。	職員の離職も少なく、馴染みの関係の中で、ご利用者は日々の生活を穏やかに過ごされている。ケアに応じて頂けなかった時は、職員間で「〇〇したからいけないのかなあ・・・」、「〇〇と言ってからすればよかったのかなあ」等、相手の立場に立って考え、自分の行動を振り返る姿が自然に見られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方々とあいさつを交わしたり季節の行事の時の情報交換等、日常的に交流している。	23年12月には民生委員の方が三味線演奏に来て下さった。その後も民生委員が町内会長との橋渡し役をして頂いており、ホームの良き協力者として医療情報などの情報交換もできている。おはぎやちまきを作った時には近所の方にもお配りしており、地域の方と何気ない会話を交わせる関係が築けている。	職員の子供達が遊びに来られるのを楽しみにしているご利用者の方も多く、子供達と楽しいひと時を過ごされている。現在、地域の子供達の交流の機会はないが、今後は地域の子供達との交流も検討していく予定にしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に対する理解を深めて頂くために「ケアの方法」や認知症の方の「心の変化」や「理由があつての行動」などを地域の方々に具体的に話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域の方々の意見を取り入れ日々のケアにとり入れている。	会議の時には“生姜はちみつ湯”などを一緒に飲んで頂き、日頃の暮らしぶりを知って頂いている。ご利用者も一緒に日々の暮らしの感想を語って下さり、運営推進会議の中で、認知症を患っても「できる事がある事」「ケアを楽しむ方法」等を具体的に伝えており、訪問看護師の方もホームでの役割等を話して下さっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と事業所の取り組み等を伝え協力関係を築くように努めている。	運営推進会議以外にも、代表が市役所を訪れた時や会議、研修時などに、ホームの状況やご利用者の様子を報告している。長崎市から災害対策に関する査察があり、「上等！」と言う評価を頂いた。年に1回訪問して下さる介護相談員の方には一緒に昼食を食べて頂き、ご利用者とお話して頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアに事業所全体で取り組んでいる。	ご利用者の不安や混乱に寄り添い、その時のお気持ちに応じた声かけ等を続けている。長崎県からの身体拘束に関するアンケートも記入し、職員全員「身体拘束はない」と自信を持って記入をされていた。他ホームでの虐待事例に関しても、「何でそんな事をする必要があるのか・・・」と、職員同士で検討する機会も作られた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を定期的にもち外部での研修の際も伝達講習に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約・改正の際はご利用者、ご家族等の不安や疑問点を尋ねわかりやすく説明しご理解頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所全体でご利用者・ご家族の意見・要望を言える機会を設けるように努めている。	代表(管理者)が自宅に訪問し、家族とお話する機会を作ったり、面会時やメール等も活用して、情報交換を続けている。「認知症にならなければ、何をしてあげたかったですか？」と尋ねる事により、「お花見や温泉に連れて行きたい」等の言葉を引き出す事ができ、「脳トレをしてほしい」等の要望を頂く事もできている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は積極的に聞く機会や話しやすい環境作りをもつように努めている。(定期的に懇親会を開催する等)	職員からの提案は多く、入浴の回数を増やしたり、ご利用者の方が家事をされている姿を写メールで家族に送るなど、色々な取り組みに繋げる事ができている。家族からの要望を職員全員が毎月尋ねるようになり、ケアの方法や業務の見直しを職員が提案して下さっている。職員のチームワークは更に良くなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績・勤務状況を把握し、各自やりがいがあり働きやすい職場の環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に受講できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者と交流する機会を作るように努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が困っている事、不安な事、要望等に応じられるように信頼関係の構築に努め ご本人の安心を確保するようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事、不安な事、要望等に応じられるように信頼関係の構築に努め ご家族の安心を確保するようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含め対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者と暮らしを共にする者同士の関係を築くように努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご本人とご家族の絆を大切にしながら支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないようにご家族と連携をとりながら支援している。	「馴染みの人に合わせたいが、一人で連れて行くのは不安」と言う言葉が家族から聞かれ、外出前の準備を一緒に行ったり、排泄に関するアドバイスも行い、実現する事ができた。面会時に家族や親戚の方が来られた時は、お部屋でゆっくり過ごされる方が多く、家族と一緒に昼食をして頂く事もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を把握し、ご利用者同士の関わり合い支え合えるような支援に取り組んでいる。			

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、これまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方らしい思いや暮らしを続けられるように、ご本人・ご家族の希望・意向等の把握に努めている。	“その人を知ること”を大切に寄り添いを続けている。リビングでの団欒時に、お花のパンフレットを見て頂いたり、一緒にテレビを見ながら“行きたい場所”などを教えてもらっている。「お刺身が食べたい」「寝ていたい」等の意向を伺いながら、ご本人の体調を見ながら個別の関わりを続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生活歴や馴染みの暮らし方・背景・サービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方・心身状態、有する能力に応じた支援またホームの中で役割をもって過ごして頂けるようにに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人が心地よく生活して頂けるようにケアの在り方についてよく話し合い、意見を反映できるようなサービスの提供に努めている。	ご本人ができることをして頂いており、“洗濯物を干す”“新聞折り”“ほつれを縫って下さる”などの役割が計画に盛り込まれている。“お手玉”“あやとり”等のご本人の特技や楽しみと共に、“娘さんとお散歩”等の家族の役割も明記されている。今後は3表を作成予定であり、家族との外出時にも活用頂く予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づき・工夫した点等を個別記録や申し送りシートに記入し情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズを把握し柔軟な支援やサービスの提供に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るように地域の資源の把握や他の業種の方々との情報交換に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携が、良好であるように努めている。	訪問看護師が毎週来て下さり、往診医(月2回)等に情報を伝えて下さっている。職員は尿臭の変化にも気づき、異常の早期発見、早期治療に繋げている。受診は職員が同行し、家族との情報共有もできている。往診して下さる先生から、「ここだから元気で過ごせていますね。満点!」と言って頂き、職員も嬉しく思っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日々の暮らしの中での気づきや体調の変化を、訪問看護師や医師に伝え相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際は安心して治療ができ、早期に退院出来るように、ケアの方法を書面で伝え情報交換や相談に努めている。入院中も可能な限り複数回お見舞いに伺い、安心した入院生活が送れるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方について複数回、ご本人・ご家族と話し合いの機会をもち、要望を把握するように努めている。	重度化や終末期の対応について、かかりつけ医、家族と一緒に、納得がいくまで話し合いが行われ、職員と共に方針の共有が図られている。24時間体制で医療連携ができおり、先生は夜中でも駆け付けて下さる。終末期には、できるだけ家族と一緒に過ごして頂けるように、家族用の寝具等も準備している。「最期までここで…」と言う方が多く、精神誠意のケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急手当や初期対応の訓練を行い実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えた避難訓練を定期的に行っている。	23年12月には消防署の方と夜間想定訓練が行われ、24年3月と8月にはご利用者・スプリンクラー設置点検業者の方と、夜間想定避難訓練が行われた。点検業者の方からも「消火機器の熟知を再度して下さい」等のアドバイスを頂いている。地域の方の協力を頂く事もでき、災害に備えて食料や水等も準備している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を大切に支援している。	優しい職員が多く、その方に合わせた声かけを行っている。羞恥心への配慮も行い、介助の前には必ず声かけを丁寧に行っている。“ケアされる内容をご本人が理解できれば、拒否をされる方はおられない”との事で、ご利用者の気持ちを大切にしたケアが行われている。個人情報の管理も徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人がやりたい事やこうしたい等の思いや希望を表せ自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせた暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	使い慣れた鏡台や化粧品、衣類、靴をご自宅より持ってきていただきおしゃれして頂けるようにご家族と一緒にやり支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みやその方が持つ力を活かしながら、食事を楽しんでいただいている。	3食とも宅配サービスを利用している。栄養バランスが良く、家庭的な献立も多いが、ご利用者に応じた味付けの調整もしている。行事や誕生日等には、ちまきやクリスマスケーキ作り・餅つきなど、ご利用者と一緒に料理をされており、“食事を作る”事を忘れない取り組みも行われている。	料理が上手な職員も多く、巻き寿司やお好み焼きなど、ご利用者と一緒に作られている。今後も勤務状態の調整をしながら、“手料理の日”を増やしていく予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分摂取量を、1日を通じて確保できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。月に1回の歯科衛生士さんによる口腔内の健診をおこなっている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを、職員が理解しており、排泄の自立に向けて支援している。	トイレでの排泄支援を大切にしている。一人ひとりの排泄感覚に合わせて声かけを行っており、失敗の回数を減らす事ができている。ほぼ寝たきりの方にも可能な限りトイレで排泄できるように支援している。トイレで排便があった時は「ありがとう」の言葉も聞かれ、失禁が減った時は共に喜ぶ機会を増やしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の及ぼす影響を、職員は理解しておりここに応じた予防や飲食物の工夫に、施設全体で取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に合った入浴を、楽しんで頂いている。	お風呂好きな方が多く、好みの湯温で入浴して頂いている。職員が抱っこして入浴される方もおられ、職員2人で介助する時もある。気の合う方同士で入浴し、お湯をかけあう姿も見られている。職員との会話も楽しまれ、「いい湯だな～♪」等の歌が出る事も多い。季節に応じて菖蒲湯や柚子湯も楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に応じた安眠や休息ができるよう、一人ひとりの生活習慣等を把握し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援や症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者は、それぞれ役割をもたれ生き生きと毎日を過ごして頂いている。積極的に楽しみごとをもすすめ気分転換をはかっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族との外出のお手伝いや美容室一緒に付き添う等、一人ひとりの希望にそった外出の支援に努めている。	寒いのが苦手、散歩よりもホーム内で過ごす事を好まれる方も多いが、庭での日向ぼっこ等はされている。季節に応じて、馴染みの場所である中島川で桜の花見を楽しまれたり、ランタンフェスティバルにもお連れする事ができた。ホテル清風の送迎バスを利用し、演芸などを楽しまれたり、家族と一緒に親戚に家に行かれた方もおられる。	ホーム内で過ごす事を好まれる方が多い中、今後も声かけの仕方を工夫し、四季折々の花を見たり、家族の方も一緒に島原の温泉などに行き、大衆演芸などを楽しめる予定にしている。近くにスーパーができる事もあり、買い物や近隣の散歩も増やしていきたいと考えられている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、お金を持つ事の大切さを理解しており、ご家族と相談の上、ご利用者は現金を所持しておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者が、家族や大切な方へ電話をしたり手紙のやり取りが出来るように支援している。忘れてしまったご家族の名前や家族関係を把握しご利用者に伝えることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間はもとよりホーム全体が、安全で快適に過ごして頂けるように努めている。	玄関にはランタンの赤い飾り物があり、ソファも置かれている。廊下の奥に台所やリビングなどの共有空間があり、テーブルやソファ等が置かれている。職員がサクラホの木をホームの庭に植えて下さり、皆さんで赤いソファに座り、「花が咲いてきたね」等の会話を楽しまれている。2階への階段にも手すりがあり、あえて段差をなくさず、リハビリを兼ねての移動ができるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごして頂けるような居場所の工夫を複数、提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご利用者のお気に入りの家具や鏡台をおき、間取りをご利用者の自宅の部屋に、少しでも近づくような家具の配置にして、居心地よく過ごして頂けるように努めている。	民家改装であり、自宅の部屋で生活しているような趣きになっている。24年度は洋間の居室に置き畳を敷いて、全室を畳に変更し、防火のため古い電化製品の買い替えも行われた。箆箭・鏡台・布団・ぬいぐるみ・観葉植物等と共に、お位牌・お数珠・家族写真などの大切な物も持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、個々の持っている力が十分に発揮でき安全に過ごして頂けるように、手すりを設置したり家具の配置を工夫したりして、自立した生活を送って頂けるようにしている。		

事業所名：有限会社 きずな グループホームきずな

作成日：平成 25 年 3 月 26 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	18	日常的な外出支援が少ない。	外出を楽しむ。	声掛けの仕方を工夫し四季折々の花を見たり思い出の場所に出かけたりしながら外出を楽しんでいただけるように支援していきたい。	12 ヶ月
2	15	食事をつくる楽しみが少ない。	食事を作ることを楽しむ。	ご利用者の方々と一緒に、楽しく料理できるように「手料理の日」を増やしていきたい。	12 ヶ月
3	2	地域の子供たちとの交流が少ない。	子供たちとの交流。	地域の子供会や行事に積極的に参加して交流の機会を増やしていきたい。	12 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月